

(様式第10)

琉大医総第354号
平成28年10月4日

厚生労働大臣

殿

琉球大学医学部附属病院長
藤田次郎

琉球大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成27年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
氏 名	国立大学法人琉球大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

琉球大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地	電話(098)895-3331
--------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
②医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有 ・ (無)					
内科と組み合わせた診療科名等						
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科															(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名															
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14		
診療実績															

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科
7産婦人科	⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科
13放射線診断科	14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科		

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科															(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名															
1	2	3	4	5	6	7									
歯科の診療体制															

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	2	3	4	5	6										
7	8	9	10	11	12	13									
14	15	16	17	18	19	20	21								

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	6床	4床	床	550床	600床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 28 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	390人	4.2人	394.2人	看護補助者	73人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	20人	0.1人	20.1人	理学療法士	10人	臨床検査技師	37人
薬 剤 師	36人	0人	36.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	6人	そ の 他	0人
助 産 師	27人	0人	27.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	570人	20.9人	590.9人	臨床工学士	19人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	0人	0.8人	0.8人	栄 養 士	0人	その他の技術員	31人
歯科衛生士	4人	0人	4人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	193人
管理栄養士	9人	0人	9人	診療放射線技師	32人	その他の職員	40人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 28 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	15人	眼 科 専 門 医	11人
外 科 専 門 医	28人	耳鼻咽喉科専門医	14人
精 神 科 専 門 医	3人	放射線科専門医	1人
小 児 科 専 門 医	11人	脳神経外科専門医	6人
皮 膚 科 専 門 医	7人	整形外科専門医	15人
泌尿器科専門医	6人	麻 酔 科 専 門 医	7人
産婦人科専門医	15人	救 急 科 専 門 医	3人
		合 計	142人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経歴

管理者名 (藤田 次郎) 任命年月日 平成 27 年 4 月 1 日

- ・医療安全管理委員会委員
- ・医療安全調査委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	465人	14人	479人
1日当たり平均外来患者数	1,111人	50人	1,161人
1日当たり平均調剤数			864 剤
必要医師数			113.4 人
必要歯科医師数			4.49 人
必要薬剤師数			16 人
必要(准)看護師数			280 人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	8床	心電計	有・無
集中治療室	185.42m ²	鉄筋コンクリート	人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 58.61 m ² [移動式の場合] 台数 0台(無菌テント等)		病床数	6床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 m ² [共用室の場合] 共用する室名 医薬品情報室・薬剤部員室					
化学検査室	358.97 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動蛍光免疫測定装置			
細菌検査室	144.00 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動迅速同定感受性測定装置			
病理検査室	162.00 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 脱水・脱脂パラフィン浸透装置			
病理解剖室	62.53 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) SL写真撮影装置			
研究室	6101.00m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) HSオールインワン蛍光顕微鏡システム			
講義室	525.91 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	374人
図書室	807.00 m ²	鉄筋コンクリート	室数	5室	蔵書数	119,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成 27年 4月 1日～平成 28年 3月 31日	
紹介率	78.6%	逆紹介率	50.0%
算出根拠	A：紹介患者の数	11,620人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,068人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,050人	
	D：初診の患者の数	16,123人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
	計画書の提出あり			有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者

2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）

3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	
計画書の提出あり	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	6人
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	0人
末梢血幹細胞による血管再生治療	0人
前眼部三次元画像解析	60人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	2人
硬膜外自家血注入療法	10人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ種(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	HLA半合致同種移植のGVHD予防の目的とした移植後大量シクロフォスファミド療法の有効性と安全性の検討	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
HLA適合または一抗原不適合の血縁または非血縁のドナーを有さず、HLA半合致移植を予定している方の同種移植の際に、移植片対宿主病(GVHD)予防を目的とした移植後大量シクロフォスファミド療法の安全性と有効性の検討。			
医療技術名	再発・難治性NK/T細胞リンパ腫に対するGELOX療法の有効性と安全性の	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
初発進行期の難治性NK/T細胞リンパ腫に対する救済療法としてGELOX療法(ゲムシタピン+オキサリプラチン+L-アスパラギナーゼ)を用いた治療法に関する有効性と安全性を検証する。			
医療技術名	脳保護のための新生児低体温療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
新生児仮死に続発する低酸素性虚血性脳症は、呼吸循環管理に加えて、全身及び頭部冷却による脳保護が効果的とされている。全身冷却による合併症管理を含め、集中的な高度医療を要する。			
医療技術名	新生児急性腎不全に対するCHDF(持続血液濾過透析法)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
新生児に発症する急性腎不全に対して、CHDFを安全に実施する技術を検討している。ECMO(体外式膜型人工肺)との併用により、非侵襲的に効率の良い腎代替療法が実施されている。			
医療技術名	新生児肺高血圧症に対するNO吸入療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
一酸化窒素は、強力な血管拡張作用を持ち、NOガスとして人工換気回路より吸入させることにより、肺高血圧症への効果が認められる。合併症管理とあわせて高度な呼吸循環管理技術を必要とする。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	患者数	患者数	患者数
1	56	1	36
2	57	13	52
3	58	3	2
4	59	0	0
5	60	3	11
6	61	58	0
7	62	7	2
8	63	2	27
9	64	0	0
10	65	1	5
11	66	36	27
12	67	0	12
13	68	31	4
14	69	6	39
15	70	0	14
16	71	0	59
17	72	15	7
18	73	12	0
19	74	10	6
20	75	1	4
21	76	7	1
22	77	19	19
23	78	0	54
24	79	8	0
25	80	0	0
26	81	4	2
27	82	0	0
28	83	7	1
29	84	0	50
30	85	1	7
31	86	0	9
32	87	0	0
33	88	0	11
34	89	13	5
35	90	46	50
36	91	0	3
37	92	21	1
38	93	2	64
39	94	0	1
40	95	23	6
41	96	0	167
42	97	2	158
43	98	20	3
44	99	9	0
45	100	2	0
46	101	5	0
47	102	37	0
48	103	1	0
49	104	210	0
50	105	65	0
51	106	85	0
52	107	21	0
53	108	12	0
54	109	2	0
55	110	0	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	9
113	筋ジストロフィー	0	163	特発性後天性全身性無汗症	2
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルティ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	3	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数	疾患名	患者数	
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中核・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	4	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	3
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレネー・ウェーバー症候群	1
234	ベルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	囊胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸フリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	3

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・退院調整加算
・歯科外来診療環境体制加算	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・特定機能病院入院基本料(一般:7:1、精神:13:1、結核:7:1)	・救急搬送患者地域連携受入加算
・臨床研修病院入院診療加算(医科(基幹型)・歯科(単独型))	・データ提出加算2
・救急医療管理加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料1
・妊産婦緊急搬送入院加算	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・診療録管理体制加算1	・新生児特定集中治療室管理料1
・急性期看護補助体制加算(25対1看護補助者 5割未満)	・新生児治療回復室入院医療管理料
・看護職員夜間配置加算	・小児入院医療管理料2(プレイルーム加算)
・看護補助加算2(精神病棟)	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・精神科応急入院施設管理加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・植込型除細動器移行期加算	・検体検査管理加算(I)
・高度難聴指導管理料	・検体検査管理加算(IV)
・糖尿病合併症管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・植込型心電図検査
・がん患者指導管理料1	・時間内歩行試験
・がん患者指導管理料2	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料3	・皮下連続式グルコース測定
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・長期継続頭蓋内脳波検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・光トポグラフィー
・糖尿病透析予防指導管理料	・神経学的検査
・院内トリアージ実施料	・補聴器適合検査
・外来リハビリテーション診療料	・内服・点滴誘発試験
・外来放射線照射診療料	・センチネルリンパ節生検(単独法)
・ニコチン依存症管理料	・センチネルリンパ節生検(併用法)
・地域連携診療計画管理料	・画像診断管理加算2
・がん治療連携計画策定料	・遠隔画像診断
・がん治療連携管理料	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・CT撮影及びMRI撮影
・薬剤管理指導料	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料1	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料2	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・外来化学療法加算1
・歯科治療総合医療管理料	・無菌製剤処理料
・持続血糖測定器加算	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)(初期加算)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)(初期加算)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	・経皮的中心筋焼灼術
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・がん患者リハビリテーション料	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・集団コミュニケーション療法料	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
・医療保護入院等診療料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・一酸化窒素吸入療法	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・補助人工心臓
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算(皮膚悪性腫瘍切除術の加算)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・経皮的動脈遮断術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ダメージコントロール手術
・脳刺激装置植込術、頭蓋内電極植込術、脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下肝切除術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・同種死体腎移植術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・生体腎移植術
・網膜再建術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1(乳腺悪性腫瘍手術の加算)	・胃瘻造設術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2(乳腺悪性腫瘍手術の加算)	・輸血管管理料Ⅱ
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・経皮的冠動脈形成術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・歯周組織再生誘導手術
・経皮的冠動脈ステント留置術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・経皮的動脈弁置換術	・麻酔管理料(Ⅰ)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	・病理部症例検討会 19回/年 ・検査部症例検討会 29回/年
剖検の状況	剖検症例数 22例 / 剖検率 11.8%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
沖縄県におけるヒト免疫不全ウイルスおよびB型肝炎ウイルス重複感染の現状調査	渡嘉敷良乃	検査・輸血部	500,000	補	日本学術振興会 科研費
血液凝固検査の測定前変動因子の検証ー血漿層の違いによる測定値への影響検討	山内恵	検査・輸血部	400,000	補	日本学術振興会 科研費
食事中的亜硝酸/硝酸の不足にて生じる代謝症候群の分子機構の解明と新規治療法の開発	喜名美香	歯科口腔外科	1,560,000	補	日本学術振興会 科研費
遅発性脊髄障害とDセリン～ノックアウトマウスを用いた研究～	澁上竜也	集中治療部	910,000	補	日本学術振興会 科研費
ヒト未固定屍体を用いた顔面の血液還流経路の解析	清水雄介	形成外科	1,043,780	補	日本学術振興会 科研費
超高齢者の血管内皮前駆細胞数, ω-3系脂肪酸および脳画像的特徴と認知機能との相関	渡嘉敷崇	第三内科	650,564	補	日本学術振興会 科研費
SERS法を用いた大腸癌早期診断法の確立	金城達也	第一外科	1,023,107	補	日本学術振興会 科研費
脳機能画像による痙攣性発声障害の発声時の脳機能解析	喜友名朝則	耳鼻咽喉科	1,355,101	補	日本学術振興会 科研費
若齢期の高脂肪食や甘味料曝露による食の嗜好性構築/記憶化(学習)メカニズムの解明	屋比久浩市	第二内科	660,000	補	日本学術振興会 科研費
FMT-PETにおける悪性脳腫瘍への集積機序の解析	菅原健一	脳神経外科	1,328,128	補	日本学術振興会 科研費
マウス全脳虚血後遅発性神経細胞死に対する硫化水素吸入療法の効果	安部真教	麻酔科	1,040,000	補	日本学術振興会 科研費
ヒト乳頭腫ウイルス 関連頭頸部癌における樹状細胞を用いた新規ワクチン療法の開発	上原貴行	耳鼻咽喉科	1,167,392	補	日本学術振興会 科研費

小計12件

頭頸部扁平上皮癌におけるリゾフォスファチジン酸受容体の発現解析	又吉宣	耳鼻咽喉科	1,043,468	補委	日本学術振興会 科研費
骨肉腫肺転移に関するマイクロRNAの検討	當銘保則	高気圧治療部	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
一酸化窒素合成酵素系完全欠損下の脳梗塞縮小現象と次世代治療確立への応用	久保田陽秋	麻酔科	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
口唇口蓋裂に関連する遺伝子と予防に関する研究-世界的に未報告のラオス人を中心に-	後藤尊広	歯科医師臨床研修支援室	1,065,760	補委	日本学術振興会 科研費
3MST knock out マウスを用いた血圧調整機序の解明	戸塚裕一	第二外科	1,203,910	補委	日本学術振興会 科研費
多価不飽和脂肪酸がヒト卵子の受精・胚発生能に及ぼす影響について	銘苅桂子	周産母子センター	1,527,320	補委	日本学術振興会 科研費
分子標的薬投与によるインヒュージョンリアクション発症機構の解明と評価系の構築	中村克徳	薬剤部	260,000	補委	日本学術振興会 科研費
現場に根ざした医療組織倫理の構築に向けた基礎的研究	金城隆展	地域医療部	126,120	補委	日本学術振興会 科研費 (研究分担者)
化学物質の安全性と発がん性リスク評価のための短・中期バイオアッセイ系の開発	吉見直己	病理部	14,300,000	補委	厚生労働省 科研費
HAM及びHTLV-1関連稀少難治性炎症性疾患の実態調査に基づく診療指針作成と診療基盤の構築をめざした政策研究	藤田次郎	第一内科	700,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
成人の重症肺炎サーベイルンス構築に関する研究	藤田次郎	第一内科	500,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
男性同姓間のHIV感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究	健山正男	第一内科	400,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の運用と他がん登録との連携	戸板孝文	放射線科	50,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
特発性大腿骨頭壊死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究	仲宗根哲	整形外科	150,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)

小計14件

緩和ケアセンターを軸としたがん疼痛の評価と治療改善の統合に関する多施設研究	増田昌人	がんセンター	600,000	補 委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
がん登録等の推進に関する法律下におけるがん登録情報の活用の実際に関する研究	増田昌人	がんセンター	250,000	補 委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
HTLV-1キャリアとATL患者の実態把握、リスク評価、相談支援体制整備とATL/HTLV-1感染症克服研究事業の適正な運用に資する研究	友寄毅昭	第二内科	0	補 委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
Whole Slide Imagine(WSI)による病理診断の多施設検証研究	吉見直己	病理部	400,000	補 委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
革新的高次脳機能治療法の樹立	石内勝吾	脳神経外科	69,899,922	補 委	労災疾病臨床研究事業費補助金
新規バイオマーカーを用いたスコア法によるIgA腎症早期発見・早期診断を介した透析移行ゼロ化に向けた試み	古波蔵健太郎	血液浄化療法部	500,000	補 委	日本医療研究開発機構(研究分担者)
ISO/TC249における国際規格策定に資する科学的研究と調査および統合医療の一翼としての漢方・鍼灸の基盤研究	廣瀬康行	医療情報部	2,320,240	補 委	日本医療研究開発機構(研究分担者)
C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変に対する抗線維化治療薬の開発に関する研究	齋尾征直	病理部	1,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
原因不明遺伝子関連疾患の全国横断的症例収集・バンキングと網羅的解析	我那覇章	耳鼻咽喉科	4,000,000	補 委	日本医療研究開発機構(研究分担者)
術野付近の視認性を改善するための高機能プラスチック製開創器の開発・事業化	清水雄介	形成外科	2,221,560	補 委	日本医療研究開発機構(研究分担者)
呼吸器感染症診断におけるゲノム解析技術の臨床応用	藤田次郎	第一内科	12,960,000	補 委	一般社団法人 沖縄総合科学研究所
幹細胞創薬を目指した培養脂肪組織由来幹細胞(ADSCs)による再生治療法の開発	清水雄介	形成外科	2,496,960	補 委	公益財団法人 沖縄科学技術振興センター
迅速病理診断業務委託契約	吉見直己	病理部	9,315,576	補 委	独立行政法人国立病院機構 沖縄病院
遠隔病理診断業務委託契約	吉見直己	病理部	905,580	補 委	沖縄県(沖縄県立宮古病院)(沖縄県立八重山病院)

小計14件

「沖縄がん対策推進計画」中間評価事業	増田昌人	がんセンター	12,000,000	補 ⑤委	沖縄県
がん医療連携体制推進事業 (地域統括相談支援センター事業)	増田昌人	がんセンター	8,440,000	補 ⑤委	沖縄県
がん患者等支援事業 (地域の療養情報おきなわがんサポートハンドブック作成事業)	増田昌人	がんセンター	11,000,000	補 ⑤委	沖縄県
沖縄県地域医療支援センター運営事業	國吉幸男	沖縄県地域医療支援センター	35,666,000	補 ⑤委	沖縄県
HIV感染者等保健福祉相談事業	健山正男	第一内科	800,000	補 ⑤委	公益財団法人エイズ予防財団
沖縄県エイズ治療拠点病院研修委託	健山正男	第一内科	690,000	補 ⑤委	沖縄県
HIV診療医師情報網支援事業	健山正男	第一内科	200,000	補 ⑤委	独立行政法人国立病院機構九州医療センター

小計7件

合計47件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Tamayose M	第一内科	Correlations between extent of X-ray infiltration and levels of serum C-reactive protein in adult non-severe community-acquired pneumonia.	Journal of Infection and Chemotherapy. 2015 Jun; 21(6):456-63
2	Nahar S	第一内科	Peritoneal Malignant Mesothelioma with Epithelioid Type, Demonstrating High Serum and Ascitic KL-6 Levels: Immunohistochemical Analyses.	Rare Tumors. 2015 Sep 7;7(3):5947
3	Yogi T	第一内科	Risk factors for postoperative recurrence of intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas based on a long-term follow-up study: proposals for follow-up strategies.	Journal of Hepatobiliary Pancreatic Sciences. 2015 Oct; 22(10):757-65
4	Nahar S	第一内科	Evaluation of a multiplex PCR assay for detection of cytomegalovirus in stool samples from patients with ulcerative colitis.	World Journal of Gastroenterology . 2015 Nov 28; 21(44):12667-75
5	Kinjo T	第一内科	Beau's Lines and Mees' Lines Formations after Chemotherapy.	Internal Medicine. 2015 Sep ;54(17):2281
6	Shibahara D	第一内科	Falciparum Malaria Incidentally Pretreated with Azithromycin.	Internal Medicine. 2015 Oct ; 54(19):2513-6
7	Furugen M	第一内科	An Autopsy Case of Two Distinct, Acquired Drug Resistance Mechanisms in Epidermal Growth Factor Receptor-mutant Lung Adenocarcinoma: Small Cell Carcinoma Transformation and Epidermal Growth Factor Receptor T790M Mutation.	Internal Medicine. 2015 Oct ;54(19):2491-6
8	Sunagawa S	第一内科	Prevention of a Nosocomial Infection Caused by Influenza Virus A Using Prophylactic Administration of Oseltamivir.	Journal of General and Family Medicine. 2015 Oct ;16(3):143-52
9	Tanaka T	第一内科	Relationship among Strongyloides stercoralis Infection, Human T-Cell Lymphotropic Virus Type 1 Infection, and Cancer: A 24-Year Cohort Inpatients Study in Okinawa, Japan.	American Journal of Tropical Medicine and Hygiene. 2016 Feb 3;94(2):365-70

小計9

10	Kozuka C	第二内科	γ -oryzanol protects pancreatic β -cells against endoplasmic reticulum stress in male mice.	Endocrinology. 2015 Apr; 156(4):1242-50
11	Kozuka C	第二内科	A novel insulinotropic mechanism of whole grain-derived γ -oryzanol via the suppression of local dopamine D2 receptor signaling in mouse islet.	British Journal of Pharmacology. 2015 Jul ;172:4519-34
12	Tomoyose T	第二内科	Giant septic lymphadenitis with marked gas formation caused by Bacteroides Fragilis in a patient with adult T-cell leukemia/lymphoma.	Internal Medicine. 2015 Nov;54(22):2919-22
13	Tamaki K	第二内科	Fatal pneumonia and viremia due to human parainfluenza virus type 1 in a patient with adult T-cell leukemia-lymphoma treated with mogamulizumab.	Journal of Infection and Chemotherapy. 2015 Nov ;21(11):820-3
14	Nishihira J	第三内科	Associations between Serum Omega-3 Fatty Acid Levels and Cognitive Functions among Community-Dwelling Octogenarians in Okinawa, Japan: The KOCOA Study.	Journal of Alzheimer's Disease, 2016;51(3):857-66
15	Inafuku H	第二外科	Successful left ventricular assist device re-implantation with omental covering for MDRP device infection.	Journal of artificial organs. 2016 Jun;19(2):192-5
16	Yamashiro S	第二外科	Management of visceral malperfusion complicated with acute type A aortic dissection.	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery. 2015 Sep;21(3):346-51
17	Shiroma A	脳神経外科	Cerebellar Contribution to Pattern Separation of Human Hippocampal Memory Circuits.	The Cerebellum. 2015 Oct; pp1-18
18	Kinjo Y	産婦人科	Ovarian preservation in young patients with endometrial cancer of endometrioid histology.	Acta Obstetrica et Gynecologica Scandinavica. 2015 Apr ;94:430-434
19	Kinjo T	産婦人科	Measurements of the lower uterine segment at term in women with previous Cesarean delivery.	Open Journal of Obstetrics and Gynecology. 2016 Jan 6: 1-7
20	Heshiki C	産婦人科	Cesarean scar pregnancy: 11 case series experience and review of the literature regarding subsequent pregnancy.	Open Journal of Obstetrics and Gynecology. 2016 Jan 6: 8-15
21	Mekaru K	産婦人科	The effect of insulin resistance on in vitro fertilization-embryo transfer in women without polycystic ovarian syndrome.	Open Journal of Obstetrics and Gynecology. 2016 Mar 6: 157-166

22	Imoto S	産婦人科	Failure patterns and prognostic factors in patients with vulvar cancer treated with primary surgery: A single-center experience.	SpringerPlus. 2016 Feb ; 5: 125
23	Yara N	産婦人科	Diffuse cavernous hemangioma of the uterus in a pregnant woman with Klippel-Trénaunay syndrome.	Case Reports in Obstetrics and Gynecology. 2016 Feb ; Article ID 4328450: 5
24	Chinen Y	小児科	Progressive Hip Joint Subluxation in Saul-Wilson Syndrome.	American Journal of Medical Genetics. Part A. 2015 Nov; 167A(11):2834-8
25	Miyagi Y	小児科	Effect of Statin Therapy in 4-Year-Old Dichorionic Diamniotic Twins with Familial Hypercholesterolemia Showing Multiple Xanthomas.	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 2015 Oct ;23(1):112-117
26	Hayashi K	皮膚科	Dermoscopic observation of acquired digital fibrokeratoma developed on the dorsum of the fourth left toe	The Journal of Dermatology. 2016 Jan;43(1).107-108
27	Nakamura I	皮膚科	A Novel Chromosomal Translocation Associated With COL1A2-PDGFB Gene Fusion in Dermatofibrosarcoma Protuberans: PDGF Expression as a New Diagnostic Tool.	The Journal of the American Medical Association Dermatology. 2015 Dec;151(2) 1330-1337
28	Miyazato M	腎泌尿器外科	Effect of continuous airway pressure on nocturnal urine production in patients with obstructive sleep apnea syndrome.	Neurourology and Urodynamics. 2015 Dec;3
29	Miyazato M	腎泌尿器外科	Effects of duloxetine, a norepinephrine and serotonin reuptake inhibitor, on the urethral continence reflex and bladder activity in rats with cerebral infarction.	Journal of Urology. 2015 Sep; 194 (3): 842-847
30	Yamashita Y	耳鼻咽喉科	Human papillomavirus infection and immunohistochemical expression of cell cycle proteins pRb, p53, and p16 (INK4a) in sinonasal diseases.	Infectious Agents and Cancer. 2015 Aug;10:23
31	Zhang C	耳鼻咽喉科	Effects of Methylation Status of CpG Sites within the HPV16 Long Control Region on HPV16-Positive Head and Neck Cancer Cells.	PloS One. 2015 Oct;10(10):e0141245

小計10

32	Zhang C	耳鼻咽喉科	Is there a higher prevalence of human papillomavirus infection in Chinese laryngeal cancer patients? A systematic review and meta-analysis.	European archives of oto-rhino-laryngology. 2016 Feb;273(2):295-303
33	Yamashita Y	耳鼻咽喉科	Squamous cell carcinoma antigen as a diagnostic marker of nasal inverted papilloma.	American journal of rhinology & allergy. 2016 Mar;30(2):122-7
34	Takara K	精神科神経科	How and why is autism spectrum disorder misdiagnosed in adult patients? - From diagnostic problem to management for adjustment.	Mental Health in Family Medicine. 2015 Nov ;11: 73-88
35	Nakamura A	精神科神経科	Prediction of an Optimal Dose of Lamotrigine for Augmentation Therapy in Treatment-Resistant Depressive Disorder from Plasma Lamotrigine Concentration at Week	Therapeutic Drug Monitoring. 2016 Mar; 38:379-382
36	Mihara K	精神科神経科	Lamotrigine augmentation therapy in a case with treatment-resistant unipolar depression that showed insufficient response to electroconvulsive therapy.	Psychiatry and Clinical Neuroscience. 2016 Feb; 70: 126
37	Ariga T	放射線科	Treatment outcomes of patients with FIGO Stage I/II uterine cervical cancer treated with definitive radiotherapy: a multi-institutional retrospective research study.	Journal of radiation research. 2015 Sep 56(5): 841-8
38	Kakinohana Y	放射線科	SU-E-P-07: Retrospective Analysis of Incident Reports at a Radiology Department: Feedback From Incident Reporting System.	Medical physics. 2015 Jun;42(6): 3227
39	Heianna J	放射線科	Concurrent use of strontium-89 with external beam radiotherapy for multiple bone metastases: early experience.	Annals of nuclear medicine. 2015 Dec 29(10): 848-53
40	Tsubakimoto M	放射線科	Can Peripheral Bronchopleural Fistula Demonstrated on Computed Tomography be Treated Conservatively? A Retrospective Analysis.	Journal of computer assisted tomography. 2016 Jan; 40(1): 86-90

小計9

41	Yamashiro T	放射線科	Automated continuous quantitative measurement of proximal airways on dynamic ventilation CT: initial experience using an ex vivo porcine lung phantom.	International journal of chronic obstructive pulmonary disease. 2015 Sep 25;10: 2045-54
42	Iraha R	放射線科	Hepatic Epithelioid Hemangioendothelioma: Vascular Penetration in the Tumor as a Characteristic Imaging Finding Case Report.	Journal of liver. 2015 Aug 4(4): 184
43	Yamashiro T	放射線科	Bilateral duplication of the abducens nerves: an incidental finding on magnetic resonance imaging.	Japanese journal of radiology 2015 Dec;33(12): 772-5
44	Tadokoro T	麻酔科	Usefulness of stroke volume variation to assess blood volume during blood removal for autologous blood transfusion in pediatric patients.	Pediatric Anesthesia. 2016 Mar;26(3):300-6
45	Maruyama T	歯科口腔外科	Synchronous quadruple multiple primary cancers of the tongue, bilateral breasts, and kidney in a female patient with a disease-free survival time of more than 5 years: a case report.	World Journal of Surgical Oncology, 2015 Aug;13:263
46	Maruyama T	歯科口腔外科	Benign epithelial inclusion consisting of squamous metaplasia and small glandular elements in regional lymph node of a patient with tongue cancer: a case report and literature review.	International Journal of Clinical and Experimental Pathology. 2016; Mar;9(3) : 4027-4032
47	Matsumoto H	病理診断科	Combined benign Brenner tumor and clear cell adenocarcinoma of the ovary.	Pathology. International. 2016 Jan ; 66(1):47-9.
48	Matsumoto H	病理診断科	Role of inflammatory infiltrates in triple negative breast cancer.	Journal of Clinical Pathology. 2015 Jul;68(7):506-10
49	Shimizu Y	形成外科	Reconstruction of partial helical defects	Dermatol Surgery 2015 Dec; 42(12):1419-23
50	Kondo Y	救急部	Stimulation of Cell Migration by Flagellin through the p38 MAP Kinase Pathway in Cultured Intestinal Epithelial Cells.	Journal of Cellular Biochemistry. 2016 Jan;117:247-58

小計9

51	Yamada S	薬剤部	Implications of Clinical Mycophenolate Mofetil Dose According to Individual Body Weight in Japanese Renal Transplant Recipients	Transplantation Proceedings. 2016 Jan ;48(1):35-41
52	Hokama A	光学医療診療部	The Mercedes-Benz sign of ischemic colitis.	Journal of Gastrointestinal and Digestive System. 2015 May ; 5(3):289
53	Ueda S	臨床研究支援センター	Limited transmission of bla(CTX-M-9)-type-positive Escherichia coli between humans and poultry in Vietnam.	Antimicrob Agents Chemother. 2015 Jun;59(6):3574-7

小計3

計 53

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
 - 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 手順書の主な内容 審査機関, 申請の種類, 倫理委員会の組織, 審査の方法, 委員会開催日, 申請書類提出期限, 提出書類, 利益相反自己申告, 申請手続きの流れ, 審査結果, 臨床研究登録制度, 補償制度, 各種報告, 講習	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年6回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 規定の主な内容 審議事項, 委員会組織, 臨床研究利益相反審査部会の設置, 審査方法, 秘密の保持	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年5回
・ 研修の主な内容 学外機関の臨床研究センター等から講師を招聘, または, 学内の臨床研究教育管理センター教員を講師として, 臨床研究の基本と研究倫理及び倫理指針等について講義を行っている。 臨床研究倫理審査委員会への申請希望者は, 講習会の受講を必須としている。	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

【主な研修内容】	【研修受講者数】	【研修指導医数】
・ HIV患者の診療、及び臨床研究	3	4
・ 重症大動脈弁狭窄症に対する経皮的動脈弁留置術	2	3
・ 心臓血管外科専門医研修	3	4
・ 先天性橈尺骨癒合症に対する授動術	2	5
・ 皮膚膠原病の各種免疫抑制療法	6	4
・ 口唇口蓋裂患者に対する一貫治療	10	5

2 研修の実績

研修医の人数	363人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
藤田 次郎	第一内科	教授	35年	
益崎 裕章	第二内科	教授	25年	
友寄 毅昭	第二内科	准教授	19年	
大屋 祐輔	第三内科	教授	34年	
岩淵 成志	第三内科	准教授	30年	
古波蔵 健太郎	第三内科	准教授	23年	
西巻 正	第一外科	教授	38年	
國吉 幸男	第二外科	教授	35年	
石内 勝吾	脳神経外科	教授	31年	
金谷 文則	整形外科	教授	39年	
前原 博樹	整形外科	講師	20年	
神谷 武士	整形外科	講師	18年	
仲宗 根哲	整形外科	講師	17年	
青木 陽一	産科婦人科	教授	32年	
知念 安紹	小児科	准教授	24年	
百名 伸之	小児科	講師	30年	
吉田 朝秀	周産母子センター	講師	20年	
高橋 健造	皮膚科	教授	30年	
斎藤 誠一	腎泌尿器外科	教授	32年	
宮里 実	腎泌尿器外科	准教授	22年	
安次嶺 聡	腎泌尿器外科	講師	18年	
呉屋 真人	腎泌尿器外科	講師	22年	
鈴木 幹男	耳鼻咽喉科	教授	30年	
我那覇 章	耳鼻咽喉科	講師	18年	
近藤 毅	精神科神経科	教授	33年	
村山 貞之	放射線科	教授	36年	
垣花 学	麻酔科	教授	25年	

淵上 竜也	麻酔科	講師	22年
中村 清哉	麻酔科	准教授	23年
新崎 章	歯科口腔外科	教授	33年
吉見 直己	病理診断科	教授	33年
清水 雄介	形成外科	特命教授	18年
久木田 一朗	救急科	教授	35年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数 <ol style="list-style-type: none">1. 胆道がんの早期診断のための研修会／ 平成27年10月22日／院内：1名（医師1名） 院外：11名（医師4名、放射線技師1名、医師事務作業補助員4名、診療情報管理士2名）2. 肝胆膵領域のがんに対する化学療法と副作用対策に関する研修会／ 平成27年10月22日／院内：6名（医師2名、診療情報管理士2名、薬剤師1名、看護師1名） 院外：2名（放射線技師：1名、薬剤師1名）3. 放射線療法と副作用対策に関する研修会／ 平成27年12月17日／院内：21名（看護師7名、薬剤師3名、放射線技師2名、理学療法士2名、

歯科衛生士1名、技師2名、研修医1名、学生3名)

院外：8名（医師2名、看護師1名、薬剤師1名、放射線技師1名、医師事務佐情補助者3名、）

4. 院内がん登録研修会

①がん登録実務者・診療情報管理士のための学会発表のための基本／

平成27年5月16日／院内：3名（診療情報管理士3名）

院外：40名（診療情報管理士22名、医療事務2名、一般事務4名、医師事務佐情補助者8名
その他4名）

②新標準登録様式について／

平成28年2月20日／院内：3名（診療情報管理士16名、一般事務 2名、）

院外：65名（医師1名、診療情報管理士26名、医師事務佐情補助者11名、医療事務8名、
一般事務10名、学生7名、その他2名）

5. 言語聴覚士，検査技師によるリハビリテーション，検査手技の研修／

当院の職員から具体的な方法の解説，基礎的知識のレクチャーを受けた後，実際の診療の
場でリハビリテーションや臨床検査手技の実際を見学する。臨床業務終了後，研修者は同
様の手技ができるように講習を受けながらトレーニングを行う。不定期に実施。

①H27/6/29-7/3・5日間・1名、②H27/7/14-7/17・4日間・1名

③H27/3/17-3/18・2日間・1名

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	藤田 次郎	
管理担当者氏名	総務課長 金城邦光、医療支援課長 金城不二子、放射線部長 村山貞之、 薬剤部長 中村克徳、看護部長 下地孝子	

		保管場所	管理方法		
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課 看護部 薬剤部 手術部 医療支援課 放射線部 診療情報管理センター	各診療日誌、看護記録は院内情報システム上で共有し一定期間づつ印刷し綴っている。診療録は入院、外来別に1患者1ファイル方式で中央管理。X線写真はデジタル化後、放射線部サーバーで保管管理し、出力画像は各診療科保存。処方箋は、外来は1週間単位、入院は病棟単位で綴り、薬剤部で保管。診療録を病院外に持ち出すことは『琉球大学医学部附属病院診療情報管理センターにおける診療記録管理運用要項』で禁止している。	
		各科診療日誌			
		処方せん			
		手術記録			
		看護記録			
		検査所見記録			
		エックス線写真			
		紹介状			
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書			
		病院の管理及び運営に関する諸記録			規則第二十一条の三第二項に掲げる事項
高度の医療の提供の実績	医療支援課				
高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部事務部 各診療科				
高度の医療の研修の実績	総務課				
閲覧実績	総務課				
紹介患者に対する医療提供の実績	医療支援課				
規則第一条の十一第一項に掲げる事項	規則第一条の十一第一項に掲げる事項		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療支援課 薬剤部	
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理対策室	各関連部署で適切に管理している。
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理対策室	
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理対策室	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理対策室				

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室	各関連部署で適切に管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME機器センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	安全管理対策室	各関連部署で適切に管理している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	各診療科	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療録管理センター	
		医療安全管理部門の設置状況	安全管理対策室	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	総務課 医療支援課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	対応部署検討中	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	安全管理対策室	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	安全管理対策室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	安全管理対策室	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課	
		職員研修の実施状況	総務課 安全管理対策室	
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課 安全管理対策室			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	附属病院長 藤田 次郎	
閲覧担当者氏名	総務課長 金城 邦光	
閲覧の求めに応じる場所	医学部管理棟2階 小会議室	
閲覧の手続の概要 閲覧の求めがあった場合、閲覧担当者が個別に対応する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
・ 指針の主な内容： ① 本院における安全管理に関する基本的な考え方 ② 医療に係る安全管理のための組織に関する基本的事項 ③ 医療に係る安全管理のための研修等に関する基本方針 ④ 本院における医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ⑤ 医療事故発生時の対応に関する基本方針 ⑥ 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ⑦ 患者等からの相談への対応に関する基本方針 ⑧ その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無 (☑・無) ・ 開催状況：年 13回 ・ 活動の主な内容： ① 安全管理の対策及び教育に関すること ② インシデント又は医療事故の判定に関すること ③ リスクマネジメント・マニュアルに関すること ④ 医療事故等が発生したときにおける事実確認・措置及び対策に関すること ⑤ 医療事故等が発生したときにおける患者及び家族等への対応に関すること ⑥ 医事紛争が生じたときの拡大防止に関すること ⑦ 訴訟が提起されたときの対策に関すること ⑧ 関係機関等への報告に関すること ⑨ その他安全管理、医療事故等、医事紛争及び訴訟の重要事項に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 5回
・ 研修の主な内容： 【指針テスト】平成 27 年 7 月 15 日～7 月 24 日 「医療安全に係る安全管理のための指針」 【第 1 回】平成 27 年 6 月 23 日・25 日・29 日 「長期人工呼吸管理に伴う様々なこと～主として医療安全の側面から」 講師：諏訪園 秀吾 (国立病院 沖縄病院 神経内科科長) 【第 2 回】平成 27 年 9 月 18 日・29 日 「医療事故調査制度施行に向けて」 講師：長尾 能雅 (名古屋大学医学部附属病院 副病院長 医療の質管理部) 【第 3 回】平成 27 年 11 月 24 日・26 日・12 月 2 日 「医療事故調査制度と関連諸制度について」 講師：後 信 (日本医療機能評価機構 執行理事 九州大学病院 医療安全管理部教授・部長) 【第 4 回】平成 28 年 1 月 21 日 「医療安全～事例から学ぶ」 講師：①呉屋 克典 (琉球大学医学部附属病院 放射線部主任) ②諸見 牧子 (琉球大学医学部附属病院 薬剤部主任)	

③田邊 敬一 (琉球大学医学部 医療支援課 事務職員)

④伊禮 貞人 (琉球大学医学部 医療支援課 診療情報管理士)

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容:

- ① インシデントレポートやRMから直接または紙面による報告
- ② GRM、分析担当者、病院管理者による院内巡視
- ③ 当該部署及び関連部署からの聴取、カルテレビュー
- ④ 部門のミーティング等に参加
- ⑤ アンケート調査
- ⑥ 報道事例を基に、院内の現状把握と職員への周知
- ⑦ 委員会等 (看護師長会、安全RN委員会) 参加

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>① 院内感染対策に関する基本的な考え方 ② 感染対策委員会の設置 ③ 感染対策室及び感染対策実務者会議の設置 ④ 職員研修について ⑤ 院内感染発生状況の把握と報告 ⑥ 院内感染発生時の対応 ⑦ 院内感染対策指針の閲覧に関する対応 ⑧ 院内感染対策の推進</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>① 院内決定事項について： マニュアル改訂、新規採用者に対するワクチン接種事業、感染対策委員会委員の追加、針容器回収Box設置</p> <p>② 報告事項： 耐性菌検出状況、抗菌薬届出状況、血液培養陽性状況、相互チェック・感染対策協議会、針刺し事例、インフルエンザ発生状況</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>① 第 1 回 開催年月日：平成 27 年 5 月 27 日 研修会名（内容）： 1) マニュアルの開き方、2) 針刺し入力方法、3) 耐性菌分離患者のベッド配置の見方、 4) 個人抗体結果確認方法、5) 指針のテスト 延べ参加人数：1391 人</p> <p>② 第 2 回 開催年月日：平成 27 年 9 月 28 日 研修会名（内容）： 1) 手洗いクイズと手洗い方法、2) 周術期口腔機能管理における口腔ケア 延べ参加人数：1220 人</p> <p>③ 第 3 回 開催年月日：平成 28 年 2 月 29 日 研修会名（内容）： カルバペネム耐性菌感染症のアウトブレイクを経験して ～手指衛生とゾーニングの重要性～ (外部講師) 延べ参加人数：343 人</p>	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

【報告】

- ① 細菌検査技師が、週1回のICTミーティングで耐性菌検出状況を報告し、ICTメンバーで情報共有をおこなう。
- ② ICTメンバーは、アウトブレイク情報などを感染対策委員会、感染対策実務者会議で報告する。
- ③ 感染対策認定看護師が、日々耐性菌検出状況を確認し病棟へ報告する。
- ④ 手指衛生実施状況、SSI、BSIサーベイランス結果を報告会で報告している。

【感染対策の推進のための方針】

- ① 感染対策リンクナース委員会で手指衛生実施状況、SSI、BSIサーベイランスを実施する
- ② ICD、薬剤による抗菌薬適正使用推進ラウンドを行い、適切な抗菌薬使用を推進する。
- ③ ICTメンバーは、感染対策上の問題が発生した場合には、感染対策委員会、感染対策実務者会議、感染対策リンクナース委員会での報告、告知を行う。また院内メールを活用し職員へ情報提供を行っている。
- ④ 週1回ICTメンバーで環境ラウンド、耐性菌ラウンドを行っている他、中央部門ラウンドも行っている。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1. 平成27年度第1回 医薬品安全職員研修会（安全管理，医療機器合同） 日 時：平成27年6月23日（火）17：30～18：30 場 所：臨床講義棟2F大講義室 テーマ：「長期人工呼吸器管理に伴う様々なこと 主として医療安全の側面から」 ～DPC病院ではあまり経験されないであろう諸問題～ 講 師：国立病院機構 沖縄病院 神経内科医長 リハビリテーション科部長 経営戦略室長 諏訪園 秀吾 先生 対 象：全職員 *ビデオによる追加研修会（6月25日、6月29日）参加人数：1,237名</p> <p>2. 平成27年度第2回 医薬品安全職員研修会（安全管理，医療機器合同） 日 時：平成27年9月18日（金） テーマ：「医療事故調査制度施行に向けて」 講 師：名古屋大学医学部附属病院 副病院長 医療の質管理部 教授 長尾 能雅 先生 対 象：全職員 *ビデオによる追加研修会（9月29日）参加延人数：1,058人</p> <p>3. 平成27年度第3回 医薬品安全職員研修会（安全管理合同） 日 時：H27年11月24日（火）17：30～18：30 場 所：臨床講義棟2F大講義室、臨床講義棟1F小講義室、 テーマ：「医療事故調査制度について」 講 師：九州大学病院 副院長 医療安全部 教授・部長 後 信 先生 対 象：全職員 *ビデオによる追加研修会（11月26日、12月2日）参加人数：919名</p> <p>4. 平成27年度第4回 医薬品安全職員研修会（安全管理、放射線、医療支援課合同） 日 時：H28年1月21日（木）17：30～18：30 場 所：臨床講義棟2F大講義室、臨床講義棟1F小講義室、 テーマ：「医療安全 事例から学ぶ」 講 師：「疑義照会事例の情報共有について」諸見牧子（薬剤部） 呉屋克典（放射線部）、田邊敬一（医療支援課）、糸嶺達（安全管理対策室） 対 象：全職員 参加人数：300名</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （ 有・無 ）</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>特定機能病院の認定要件である「医薬品情報の整理・周知及び周知状況の確認の徹底、並びに適応外、禁忌等の処方に係る確認及び必要な指導（経過措置；H28.9まで）」の対応として平成28年9月12日に「医薬品の安全のための業務手順書」を下記のとおり改定した。</p> <p>1) 医薬品情報の整理、周知及び周知状況の確認の徹底への対応 (改定箇所) 第10章 医薬品の情報収集・管理・提供（主として利用する部署：薬剤部）</p> <p>2. 医薬品情報の提供 ・必要に応じた各部門、各職種への提供を行う。</p> <p>↓</p> <p>・必要に応じた医薬品情報を各部門、各職種へ提供・周知を行い、その周知状況の確認を実施する。</p>	

2) 適応外、禁忌等の処方に係る確認及び必要な指導への対応

(改定箇所)

第6章 患者への医薬品使用 (主として利用する部署: 薬剤部)

4. 調剤

(1) 処方鑑査

・処方せんの記載内容を確認し、処方内容と誤りがないことを確認し、患者情報・薬歴に基づき、重複投与、投与禁忌、相互作用、アレルギー、副作用等に留意する。

↓
・処方せんの記載内容を確認し、処方内容と誤りがないことを確認し、患者情報・薬歴に基づき、重複投与、投与禁忌、相互作用、アレルギー、副作用、適応外使用等に留意する。

(2) 疑義照会

②疑義照会の際の手順

・特に適応外、禁忌等の処方に係る確認は、可能な限り把握して処方医に疑義照会する。ハイリスクと判断された場合は使用の可否について処方医によく確認し、その結果を診療録に記録する。

実施状況の確認は各部署責任者が手順書に基づいて業務が行われているかをチェック、また病棟担当薬剤師が定期的に巡回、さらに年2回程度は手順書に基づく業務が実施されているかを、チェックリストを用いて確認・記録している。

1. チェックリストによる実施確認

平成28年6月中旬に第1回目の「医薬品の安全使用のための業務手順書」に基づいた安全確認チェックを実施した。結果は全般的に良好であった。また今後、問題のあった病棟は病棟担当薬剤師と協議し、改善していく。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (囲・無)

医薬品に係る情報は薬品情報担当薬剤師が、PMDA医薬品医療機器情報ホームページ、電子カルテ上のJUS-DI、製薬会社MRより収集し、評価・周知している。
また現在、薬剤部における疑義照会事例を集計・分析し、各病棟、診療科に定期的に周知している。疑義照会に際しては特に適応外、禁忌等の処方に係る確認は、可能な限り把握して処方医に確認し、今後、疑義照会事例の別項目として各病棟、診療科に定期的に周知する。その際職員名簿等を添付し周知状況をチェックすることにより確認を徹底することとした。

- ・ その他の改善のための方策の主な内容:

1) ドパミンの血管外漏出インシデントへの対応

今年の4月1日(2016003)に病棟でイノバン注(ドパミン)が血管外に漏出し潰瘍形成したインシデントが発生した。原因として薬剤副作用の知識不足も挙げられていたため、薬剤部において抗がん剤以外で血管外漏出に注意すべき薬剤について、予防のポイント、注意すべき薬剤のリスト、そして対処・治療法をまとめて、情報提供(DIニュース号外;2016年4月21日)した。

2) 薬剤部内での対応

①リンデロンとデカドロンの交付間違いインシデントへの対応

平成27年10月6日に薬剤部にて、リンデロン注4mg 1Aの処方に対してデカドロロン注1.65mg 1Aを調剤・交付し、看護部にて指摘があり正しい薬剤に交換したインシデント(201501008)が発生した。原因として色・アンプルの形状が類似しており、また同じステロイド剤で冷所保管という共通点から思い込みによる取違いであった。対策として処方箋上にリンデロン注の名称の前に一般名である【ベタメタゾン】と追記し、デカドロロン注は緑色で表示し注意喚起した。以後取違いのインシデントは発生していない。

②ピタバスタチンとアトルバスタチンの取違いインシデントへの対応

平成27年10月26日(201501112)薬剤部にて、ピタバスタチンOD錠2mgの処方に対してアトルバスタチンOD錠10mgを誤って調剤・交付し患者が2日分内服した。スタチンは後発品に切り替えており、先発品に比べて名称が類似し、またOD錠も共通していたための思い違いであった。対策として視認性をよくするため院内処方箋に【ピタ】バスタチン、【アトル】バスタチンと表示、また後発品の名称確認を徹底することとした。以後本インシデントは発生していない。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年104回
・ 研修の主な内容： 人工呼吸器、血液浄化装置、保育器、人工心肺装置、除細動器、輸液ポンプ シリンジポンプ及び新規導入機器について取り扱い説明研修	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： ・ 院内で臨床工学室が管理している機器を医療機器安全専門委員会で決定し、日常点検、使用中点検、定期点検を実施している。また臨床工学室で対応できない機器に関しては、メーカー保守点検契約を結び対応している。 ・ メーカー対応機種： 麻酔器、人工心肺装置、放射線関連機器	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ PMDA、各種学会からの情報、メーカーからの不具合情報をMEセンターで収集し、臨床工学室で共有、情報は該当機種か判断し、各部署に周知徹底している。 ・ 重要事項においては、病院長に報告し各部署に再通知後必要な時に再研修や院内回覧し全職員に周知している。 ・ 診療に支障が出ない範囲で院内使用機器の統一化を図り、取り扱い方法の煩雑化を減らし、ME機器使用の安全性を高めるように、臨床工学室で取り組んでいる。 ・ 毎月 1 回医療機器安全管理専門委員会にて、インシデント及びアクシデント点検修理状況、機器情報を周知し、各部門が集まり対策を図っている。	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 既存の医療に関する安全管理規程の一部改正により、医療安全管理責任者を配置した。今後、適正な医療全般の安全管理体制を推進する。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> (3名) ・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 既存の「医薬品の安全のための業務手順書」を改訂し、医薬品情報を各部門、各職種へ提供・周知を行い、その周知状況の確認を実施することとしている。	
・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認薬の使用にあつては、臨床倫理委員会の助言を経て使用することとしている。なお、未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門については、担当部門、担当部門スタッフ及び未承認新規医薬品等評価委員会を平成 29 年 3 月までに設置することとしており、必要な関連業務についても併せて確認することとしている。	
・担当者の指名の有無 <input checked="" type="checkbox"/> ・無	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無)	
・規程の主な内容： *患者の意思決定に必要な情報の提供、誠意ある態度での説明、情報に対して患者が理解していることの確認、患者の自己決定能力の有無の確認と、患者の自由意思・自発性の尊重、チーム医療における役割分担等説明に対する同一性の確保、セカンドオピニオンについての説明、比較的緊急で実施する手術及び処置に関する同意について明記している。	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・活動の主な内容： (1) 診療記録の適正かつ円滑な管理運用に関すること。 (2) 診療記録の様式及び記載方法その他必要な基準等の作成に関すること。 (3) 診療記録の適正な記録等の監査に関すること。 (4) 診療記録の適正な記録等のために必要となる情報の収集に関すること。 (5) その他診療記録の管理運用に関すること。	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（２）名、専任（１）名、兼任（０）名 うち医師：専従（０）名、専任（１）名、兼任（０）名 うち薬剤師：専従（０）名、専任（０）名、兼任（０）名 うち看護師：専従（２）名、専任（０）名、兼任（０）名 *平成30年3月までに、医師及び薬剤師1名を専従配置する予定である。</p> <p>・活動の主な内容： (1) 安全管理対策に係る実施状況の調査及び把握に関する事。 (2) 安全管理対策に係る職員等の教育研修の実施及び意識向上の状況の確認並びに具体的な指導方法に関する事。 (3) リスクマネジメント・マニュアルの改正に関する事。 (4) 医療事故等及び死亡事例に係る発生原因の調査、分析並びに関係部署に対する指導、助言に関する事。 (5) 医療事故等及び死亡事例に係る診療録・看護記録等への記載が正確かつ十分になされているかの確認及び必要な指導に関する事。 (6) 医療事故等及び死亡事例発生時における患者及び家族に対する説明等の対応状況の確認及び指導に関する事。 (7) 医事紛争の原因の調査及び分析に関する事。 (8) 琉球大学医学部附属病院医療安全管理委員会（以下「医療安全管理委員会」という。）の資料及び議事録の作成並びに保管、その他医療安全管理委員会の庶務に関する事。 (9) 医療安全相談窓口に関する事。 (10) その他、医療安全対策の推進及び連絡調整に関する事。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・規程の主な内容： <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">計画書の提出あり</div></p> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）</p>	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
<p>・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・規程の主な内容： <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">計画書の提出あり</div></p> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）</p> <p>・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）</p>	

⑨ 監査委員会の設置状況					有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
<p>・監査委員会の開催状況：年 回</p> <p>・活動の主な内容：</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">計画書の提出あり</div> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p> <p>・委員名簿の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p> <p>・公表の方法：</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 77 件（H27. 10. 1～H28. 3. 31）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 15 件（H27. 4. 1～H28. 3. 31）
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) 安全管理の対策及び教育に関すること。
 - (2) インシデント又は医療事故の判定に関すること。
 - (3) リスクマネジメント・マニュアルに関すること。
 - (4) 医療事故等が発生したときにおける事実確認、分析、調査検証等及び対策に関すること。
 - (5) 医療事故等の分析等結果を活用した改善のための方策の立案、実施及び実施状況の確認等に関すること。
 - (6) 医療事故等が発生したときにおける患者及び家族等への対応に関すること。
 - (7) 医事紛争が生じたときの拡大防止策に関すること。
 - (8) 訴訟が提起されたときの対策に関すること。
 - (9) 関係機関等への報告に関すること。
 - (10) その他安全管理、医療事故等、医事紛争及び訴訟の重要事項に関すること。

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り（有（病院名： ）・無）
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（有（病院名： ）・無）
- ・技術的助言の実施状況

計画書の提出あり

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
医療安全相談窓口の活動等に関して必要な事項を定め、相談窓口責任者、相談員、窓口担当者を置き対応している。また、相談により患者等が不利益を受けないよう適切に配慮している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況
・ 研修の実施状況 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 20px;">計画書の提出あり</div>
⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・ 研修の実施状況 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 20px;">計画書の提出あり</div>

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 病院機能評価 (3rdG:Ver1.1) 平成27年4月23日・24日受審 認定第 J C 509-3号 平成27年5月30日～平成32年5月29日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 【広報手段】 ・病院ホームページ、病院情報誌ホットライン、大学院・医学部・附属病院概要などで広報活動を行っている。 【広報内容】 ・病院指標 (年齢階級別退院患者数、診断群分類別患者数 等) ・診療科部等の紹介 ・職員、専門医、認定医等の紹介 ・特集記事 (インフルエンザ・不眠症・鬱病などの病気に関することや、新規導入機器・施設等の紹介) ・イベント案内 など	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 * 周術期の患者に対し、歯科口腔外科と手術を実施する診療科が連携して外科手術後の合併症予防のための口腔機能管理を行っている。 * 複数診療科にまたがる手術を要される患者に対し、手術実施診療科だけでなく病理医も含め合同でカンファレンスを行うなど、連携して対応にあたっている。 * 精神科入院患者で、身体疾患を併せ持つ患者に対して、精神科と精神科以外の診療科が連携し、必要に応じて精神科以外の診療科への入院受け入れが可能な体制となっている。	